

研究テーマ	本県ニホンジカ由来の皮・角を素材とした高付加価値製品の開発（第2報）		
担当者（所属）	串田賢一・秋本梨恵（デザイン）		
研究区分	ダイナミックやまなし枠研究	研究期間	平成29～31年度

【背景・目的】

近年、山梨県ではニホンジカによる森林・農業被害が深刻化しており、県では被害低減に向け第二種特定鳥獣管理計画に基づき捕獲を進め、個体数調整に取り組んでいる。捕獲されたニホンジカのほとんどは廃棄処分されており、食用として流通しているわずかな量のニホンジカについても、食肉加工の残渣となる皮や角は廃棄処分されているのが現状である。

一方、本県には甲州印伝や宝飾加工といった産業の集積があり、ニホンジカの皮や角を高度に利用し、新しい製品を創り出すことができる独自の産業背景がある。

本研究は、こうした本県独自の強みを生かし、ニホンジカ由来の素材から高付加価値製品と製品ブランドを創り出すことで、社会的課題の解決と産業の振興とを結び付け、県及び本県産業を広くPRするとともに、新たな市場を獲得することを目的として実施した。

【得られた成果】

1. なめし革の物性評価の実施

富士河口湖町、北杜市、丹波山村で捕獲されたニホンジカの皮を、これまで開発してきた印伝用の白色なめし加工で仕上げたものを試料とし、JISに基づく物性評価を行った（図1）。その結果、現在、印伝に用いられているキョン革と遜色ないことが確認された。

	富士河口湖町産	北杜市産	丹波山村産	
伸び (%)	46	46	46	
吸水度 (%)	108.7	111.7	102.2	
撥水度 (級)	3	2	3	
吸湿度 (mg/cm ²)	4.09	5.65	3.3	
耐屈曲性 (級)	≠	5	5	
	⊥	5	5	
透湿度 (mg/cm ² /h)	20.17	20.67	18.88	
引張強さ	(kgf/mm ²)	1.93	1.35	1.73
	(Mpa)	18.9	13.2	16.9
引裂強さ	(kgf/mm)	2.66	1.93	1.97
	(N/mm)	26.1	18.9	19.3
厚さ (mm)	0.86	0.90	0.82	

図1 物性評価結果

2. 試作品の作製

開発した鹿革を用いて、印伝柄9点、印伝加工した製品6種12点を試作した。また、鹿角と貴石等の組み合わせによる宝飾製品6種10点を試作した（図2）。

◆開発した試作品

名刺入／長財布／角型トートバッグ／小型ポーチ／編込トートバッグ／バックパック／ピアス／ネックレス

3. 消費者の受容性評価及び情報発信の実施

試作品の一部を用い、消費者の受容性評価を行った。併せて、生産背景を記載したストーリーブックを配布し、本県の取組の情報発信を行った。

◆期日：平成31年3月23日（土）～27日（水）

◆場所：富士の国やまなし館（東京都中央区日本橋）

◆回答：108名（男性 29名／女性 79名）

◆結果：捕獲したニホンジカの有効活用に結びついていく点や製品の仕上りを中心として好評価を得た。



図2 試作品（小型ポーチ）

【成果の応用範囲・留意点】

これまでに引き続き、関係者と連携しながら品質向上や高付加価値製品の開発に取り組んでいく。